

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：34302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02792

研究課題名(和文) 十分な見出し項目数を有する学習者向け日日辞典のコンセプト提案

研究課題名(英文) Toward the Compilation of a Japanese-Japanese Dictionary for Learners

研究代表者

森口 稔 (Moriguchi, Minoru)

京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師

研究者番号：40389094

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：学習者向け日日辞典のコンセプトを提示するために、見出し語リスト、見出し項目のマイクロ構造の執筆サンプル、執筆マニュアル、定義語彙リストを作成した。

まず、日本語を見出しとする複数の辞書を参考として見出し語数を約3万語と定めた。次に、筑波ウェブコーパス、生活用語辞典、防災用語事典、高校教科書などを参考として28061語の見出しリストを作成した。一方で、日日辞典の見出し項目内に必要な情報を検討しマイクロ構造を定め、その執筆マニュアルも作成した。サンプルとして、見出しリストのうち497語のマイクロ構造を執筆した。それと並行し、4761語の定義語彙リストも作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界各地で300万人以上が日本語を学習し、また、留学や技能実習などで多くの外国人が来日しているにも関わらず、十分な見出し語を備えた日日辞典はまだ存在しない。また、日本語の語義を日本語で定義するためには、Oxford Advanced Learner's Dictionary等が採用している定義語彙を定める必要があるが、その方式を採用した辞書も出版されていない。本研究は、今後、そういったニーズを満たすための辞書が実際に出版される際、見出し語リスト、定義語彙、執筆マニュアルを作成する基礎となり得る。また、マイクロ構造の執筆サンプルは、日本語非母語話者による利用を考慮した内容であり、参考となり得る。

研究成果の概要(英文)：To present the concept of a Japanese-Japanese dictionary for learners, we created the headwords list, writing samples of the microstructure of headword entries, the writing manual, and the list of defining vocabulary.

First, we determined the number of headwords to be approximately 30,000, with reference to several dictionaries containing Japanese headwords. Next, we created the headword list of 28061 words by referring to the Tsukuba Web Corpus, a dictionary of daily life terms, a dictionary of disaster prevention, and high school textbooks. On the other hand, we discussed and established the microstructure by examining the information needed for Japanese learners. We also created the writing manual. We wrote microstructure samples of 497 words while creating the list of defining vocabulary, which contains 4761 defining words.

研究分野：辞書学

キーワード：日日辞典 日本語学習者 見出し語リスト 見出し語数 執筆マニュアル 定義語彙リスト ミクロ構造サンプル

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

辞書は外国語教育および外国語学習における必須アイテムの一つである。そのため、英語教育の本場である英国では、母語話者向けの英英辞典とは一線を画した、学習者向け英英辞典の出版・研究が盛んである。中でも、**Oxford Advanced Learners Dictionary**(以下、**OALD**)、**Longman Dictionary of Contemporary English**(以下、**LDOCE**)などは、日本人の英語教育者や中級以上の英語学習者も多く利用している。

一方、日本語関連では、**OALD** や **LDOCE** に相当する学習者向け日日辞典は、国内外において、まだ出版されていない。現在のところ、日本語の語義を日本語で定義する日日辞典の記述を含む主な辞書やデータベースは、管見では以下の3点である。

阪田雪子・監修、遠藤織枝・編集主幹『日本語を学ぶ人の辞典』新潮社、1995.

「チュウ太の Web 辞書」(<http://chuta.jp/>)

「日本語教育語彙表」(<http://jreadability.net/jev/>)

しかしながら、これらの辞書やデータベースも英語に比較したとき、収録語数や語義記述の点で遅れていると言わざるを得ない。そのため、日本語学習者は、母語と日本語の二言語辞書か国語辞典を使用していることが多い。

2. 研究の目的

上記のような現状を鑑み、本研究では、指導者と学習者の双方に使い勝手の良い学習者向け日日辞典のコンセプトを提案することを目的とした。そのコンセプトは、見出し項目数と具体的な見出し語リスト、見出し項目内のマイクロ構造と執筆サンプル、語義記述のための定義語彙リスト、マイクロ構造の執筆マニュアルを作成することで提示した。本研究で 1 冊の辞書を完成させることはしないが、便宜的に『上級学習者向け現代日日辞典』(**Dictionary of Contemporary Japanese for Advanced Learners**、以下 **DCJAL**)と呼ぶこととする。

3. 研究の方法

以下の5つの点について説明する。

- ・見出し項目数
- ・見出し語リスト
- ・マイクロ構造の執筆マニュアルの作成
- ・マイクロ構造サンプル執筆
- ・定義語彙リスト

(1) 見出し語数の算定

DCJAL の見出し語数は、既存の日本語関連の辞書の一部から必要と思われる語を抽出し、その割合から逆算することで算出する方法を取った。たとえば、既存の辞書の総見出し語数が仮に5万語だとしよう。5万語のうち100語を抽出し、その100語中、**DCJAL**に必要な見出し語が30語だった場合、逆算すると**DCJAL**に必要な総見出し数は1万5千語となる。

具体的には、次の5冊を使用して算定した。コロンの後に示した数字は見出し語の概数である。日本語教育関連の辞書だけでは十分な見出し語を得られないため、国語辞典と和英辞典の見出し語も利用している。

見坊豪紀他『三省堂国語辞典・七版』三省堂、**2014：76,600**
 中邑光男他『ジーニアス和英辞典・3版』大修館書店、**2011：83,000**
 国立国語研究所『教育基本語彙の基本的研究 教育基本語彙データベース』**2001：24,740**
 佐藤正透『暮らしの日本語単語 14000 日中版』語研、**2011：14,000**
 阪田雪子他『日本語を学ぶ人の辞典』新潮社、**1995：11,000**

上記辞書の3箇所の範囲から試算したDCJALの見出し語数は以下となる。つまり、「あ」から「あかんぼう」の範囲でDCJALに必要な語数は**168.5**語であり、それは全体の見出し語数の**0.569%**に当たる。そこから逆算すると、DCJALの総見出し語数は**29636**語となる。以下、同様の計算を行った。

	全体に対する割合	語数	DCJAL 見出し語数
あ～あかんぼう	0.569	168.5	29,636
か～がいじん	0.611	172.0	28,131
さ～さいぼん	0.529	170.2	32,194

元々の各辞典の見出し語数が概数である点を考慮すると、この数字も厳密に考えるべきではない。しかしながら、それぞれの範囲から別々に試算しても、3万語前後という数字が得られ、DCJALの見出し語数は約**3**万語が妥当と考えた。

(2) 見出し語リストの作成

DCJALでは、コーパスにおける出現頻度の上位語のうち必要とされる単語を選定し、これに、医療関連、防災関連、日本的物事、基礎的の学術用語を付け加えた。さらに、中上級者でも理解が難しい可能性のある、機能的複合辞を付け加えた。一方で、中上級者ならば既に知っていると思われる基本語彙は割愛した。その上で、再度、見直しを行い、必要な語を追加していった。

具体的には以下の手順である。

筑波ウェブコーパス (<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/>) から出現頻度上位6万語を抽出。

日本語教育経験者6名が、上記の6万語からDCJALの見出し語としてふさわしいと思われる語を選択。

6名中4名が選択した語を見出し語候補として採択。

上記の段階での不足を補うために、医療関連、防災関連、日本的物事、高校教科書で使われる基本的専門用語等をまとめた、約**7400**語のリストを作成。

日本語教育経験者6名が、上記の**7400**語からDCJALの見出し語としてふさわしいと思われる語を選択。

- (6) 6名中4名が選択した語を追加の見出し語候補として採択。
- (7) 上記の(3)と(6)の結果を統合し、ノイズを除去して調整。
- (8) 中上級者が間違いやすい、または、知らないと考えられる複合辞リストを作成。
- (9) 上記の(7)と(8)を統合。
- (10) 再度、見直しを行い、必要な語を追加。
- (11) 28060語の見出し語リストを作成。

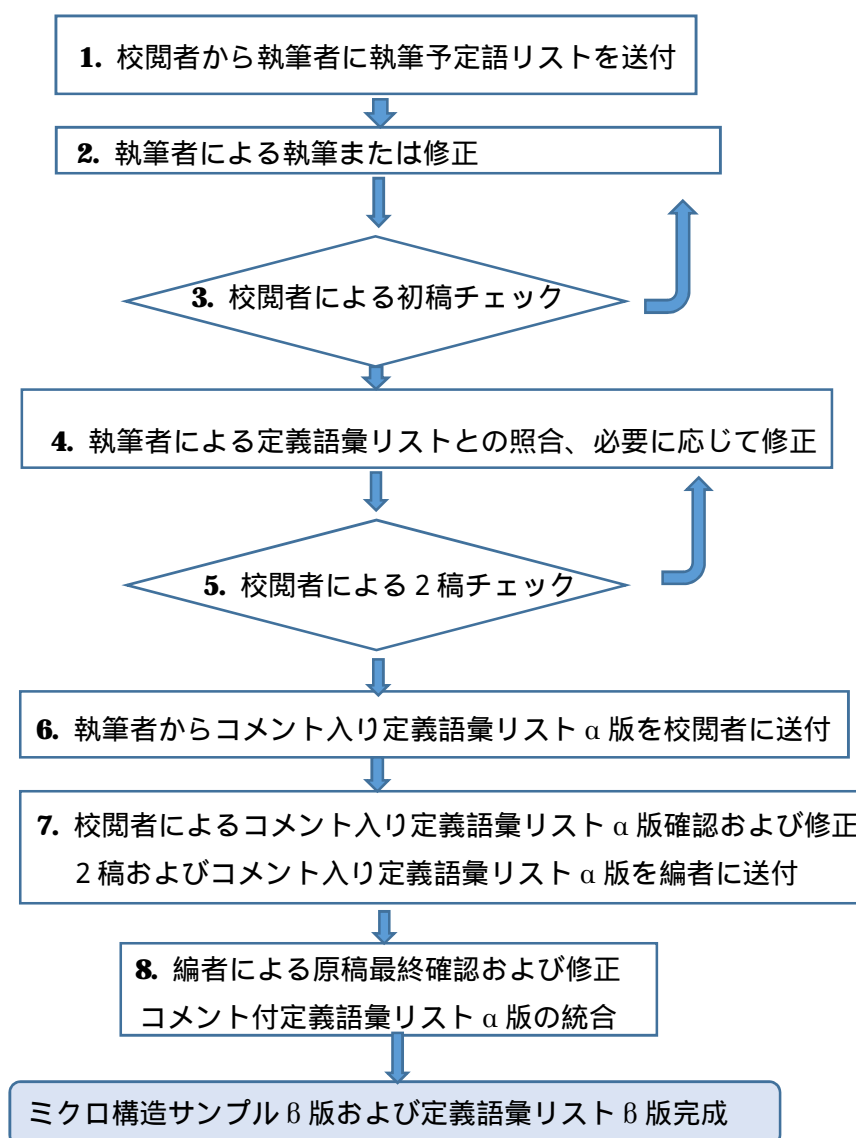
(3) ミクロ構造の執筆マニュアルの作成

執筆マニュアルは、辞書編纂および辞書執筆の経験がある研究代表者の森口が作成し、実際の執筆作業からのフィードバックを受けながら、現在、第4版となっている。

(4) ミクロ構造サンプル執筆

執筆マニュアルに即して以下の流れを進めた。「執筆者」は、実際の執筆作業担当者、「校閲者」は研究課題の研究分担者（坂口、中山、鄭）、「編者」は研究代表者（森口）を指す。

全体の流れ



(5) 定義語彙リストの作成

定義語彙リストは以下の手順で作成を進めた。

定義語彙リストの叩き台として、以下の4つの単語集を統合した。

野呂・徳田 2007	5853 語
筑波ウェブコーパス上位	3000 語
はじめての日本語能力試験 N4 単語	1500 語
はじめての日本語能力試験 N5 単語	1000 語

上記の統合データから定義語彙としては不必要と考えられる語を、森口の判断で削除し 4863 語とした。

砂川他(2020)『ねっこ』に入っていて、上記 4863 語に含まれていない語、38 語を追加し 4901 語とした。

OALD が定義語彙としている Oxford 3000 には機能語も含まれているため、DCJAL でも機能語や複合辞を定義語彙に入れることとした。また、Oxford 3000 には固有名詞が入っていないが、DCJAL では固有名詞も加えている。

2021 年 8 月 17 日に、上記の点を鑑み、再度、森口が不要と思われる語を挙げ、他のメンバー 5 人が検討し、4745 語とした。

約 500 語を執筆し上記の α 版に修正を加え、現在は 4761 語となっている。

4. 研究成果

日本語非母語話者向けの日日辞典のコンセプトを提案するために以下を実施した。

- (1) 充分と考えられる見出し語数の算定
- (2) その語数に相当する見出し語リストの作成
- (3) 定義を含む各項目のマイクロ構造の作成
- (4) その構造に基づいた項目の記述例の作成
- (5) 定義のために使う語彙（定義語彙）のリストの作成

(1)は 2019 年度に完了し、約 3 万語という数字を提示した。それを目標として 2021 年度末に(2)として 27533 語の見出し語リストを作成し、その後、修正と追加を経て 28060 語となった。(3)は、2021 年度末に確定し、それに基づいた(4)のサンプルは 477 語が完成している。(5)の定義語彙は、4761 語となった。

本研究で進めている辞書研究の概念は、既存の例がほとんどなく、日本語教育関係者や辞書関連研究者の間でもあまり知られていない。そのため、これまでの学会発表では、いずれの場合も概要を紹介することから始めた。その上で、見出し語の拡張、定義語彙リスト、語義記述の特徴、執筆マニュアル、教育への応用などについて、具体例を挙げながら報告した。また、日本における日本語教育関係者以外への広報的意味合いを込めて、海外の日本語関連学会や国内の英語辞書研究会でも発表を行った。

さらに、本研究内容は、「非母語話者向け日日辞典のための定義記述語彙の検証と改良」(21K00636)に引き継がれ、執筆サンプルを増やして定義語彙を改良するとともに、教育への応用を模索している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 森口稔
2. 発表標題 定義記述語彙を定めた非母語話者向け日日辞典について
3. 学会等名 日本コミュニケーション学会関西支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 恩塚千代
2. 発表標題 充分な見出し語数を有する 学習者向け日日辞典のコンセプト提案
3. 学会等名 韓国日本語学会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山英治
2. 発表標題 新聞コーパスを用いた類義語の分析と教材化 - 「姿勢・態度・構え」を例に -
3. 学会等名 タイ国日本語教育研究会第32回年次セミナー（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口稔
2. 発表標題 日本語非母語話者向け日日辞典の見出し語数の試算方法とその妥当性
3. 学会等名 語彙辞書研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森口稔
2. 発表標題 Two “Japanese” Dictionaries for non-Japanese People
3. 学会等名 AUSTRALEX 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山英治、坂口昌子、鄭惠先
2. 発表標題 日本語学習者向け日辞典に必要な外来語の語義と文法情報 - 新聞で使用される「コメント」を例に -
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鄭 惠先 (Jung Hyeseon) (40369856)	北海道大学・高等教育推進機構・教授 (10101)	
研究分担者	中山 英治 (Nakayama Eiji) (50546322)	大阪産業大学・国際学部・教授 (34407)	
研究分担者	坂口 昌子 (Sakaguchi Masako) (60340428)	京都外国語大学・外国語学部・教授 (34302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	恩塚 千代 (Onzuka Chiyo)		
研究協力者	王 崗 (Wang Gang)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関